

## いっしょにあそぼう

鹿児島県 漆小学校 2年 稲留 ふたば

「お母さん、あそびにいつてくるね。」

わたしは、元気よく公園へあそびに出かけました。家の近くの公園に行くと、知らない女の子たちが7人くらいいて、楽しそうにあそんでいました。

わたしは、じぶんの家からすこしはなれた、とくにんの小学校に通っているのです、近所には同じ小学校に通っている友だちはほとんどいません。公園にいる女の子たちは、わたしの知らない人たちでした。

さいしょは、一人でブランコにのってあそんでいました。一人で遊んでいたら、楽しそうな声が聞こえてきました。女の子たちを見ているうちに、わたしもいっしょにあそびたいなと思うようになりました。「わたしも入れて」と言ってみようかなと思いましたが、名前も知らない女の子たちだったし、知らんぷりをされたらいやだなと思ったので、なかなか言えずにいました。

そのとき、私のすぐ近くに女の子たちが走ってきました。わたしは思い切って、

「ねえ、なんのあそびをしているの。」

と女の子に言いました。言ったときは、むねがドキドキしていました。女の子たちはすぐに、

「おにごっこしているんだよ。いっしょにあそぼうよ。」

と仰ってくれました。わたしは、

「うん、いっしょにあそぶ。」

と言いました。わたしはおにごっこがだいすきです。

おにごっこをしていると、女の子たちが、

「ちょっと、わたしたちがおそく走ろうか。」

とたずねてくれました。女の子たちは、わたしよりも少し大きくて、走るのものはやかったからです。わたしは、それを聞いてとてもうれしくなりました。

「うん。」

女の子たちは、わたしをおいかけるとき、わたしと同じくらいのはやさで走ってくれました。わたしもおにになったり、にげたりしました。おにごっこをしていると楽しくなってきた、わたしはわらっていました。わたしよりも少し大きな女の子たちも、たくさんわらっていました。

「また、あそぼうね。ばいばい。」

家に帰ってからお母さんに、公園であそんだことを話しました。女の子たちがルールを少しだけかえてくれて、うれしかったことも話しました。お母さんは、

「やさしいおねえさんたちがいて、よかったね。」

と言いました。

「うん、とってもやさしいおねえさんたちだったよ。楽しかった。」

わたしはお母さんに言いました。また公園にあそびに行くのが、とても楽しみにになりました。

おねえさんたち、あのときはありがとう。わたしも、おねえさんたちみたいにやさしくなりたいです。